

史跡 鷲ノ木遺跡

鷲ノ木遺跡は、北海道南部の森町にあります。これまで知られている中では、北海道で最大の環状列石（幅 37m）です。この遺跡は紀元前 2000 年頃のものであり、青森や秋田で発見された同時期の環状列石と類似点があります。北東北と北海道南部の環状列石は、これら 2 つの地域で文化が共有されていた証拠だと考古学者たちは考えています。

環状列石の構成

この環状列石は、外側に 2 つの環があり、中心には楕円形の配石があります。環状列石を構成する 602 個の石の多くは地面に埋め込まれています。石は直立していたり、さまざまな角度で内側を向いていたりします。これらの石は、約 1km 離れている桂川の河口から集められたのでしょうか。環状列石の近くでは、墓穴や釣鐘型の小さな土製品などが見つかっています。

環状列石の保護

この環状列石は丘の上にあります。2003 年、高速道路の建設工事前に発見されました。地域で環状列石を保存する活動が行われ、この丘を整地する計画はなくなりました。代わりにトンネルが建設され、石や石が埋まっている地層を動かさないよう細心の注意が払われました。振動は常に監視され、トンネル工事の一部は動力機械を使わずに行う必要がありました。環状列石は本来の場所にそのまま残り、現在はその下に高速道路が通っています。

環状列石を訪れる

この遺跡は、所在地の関係上、一般公開はされていません。この遺跡は、森町遺跡発掘調査事務所が実施する見学会でのみ訪問できます。この事務所は、環状列石と遺跡からの出土品に関する展示も行っています。この事務所の展示室は入館無料です。情報は日本語でのみ提供されています。